

小山市立博物館

博物館だより

2018
8.15

67

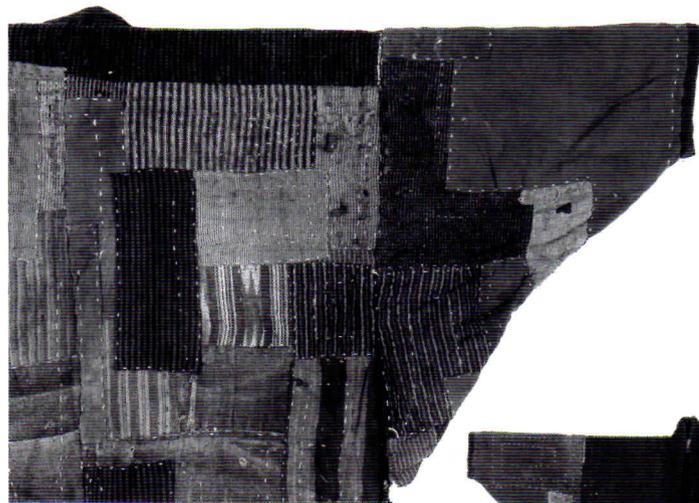
第71回企画展 「糸と布をめぐる手しごとの旅」

平成30年11月3日(土・祝)～12月16日(日)

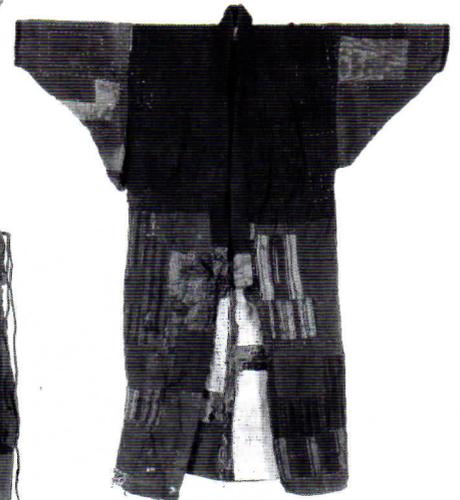
家族の衣服を作ることが重要な家事の一つであった頃、お針仕事に代表されるように「手しごと」は生きるために必要不可欠な行為として当たり前暮らしの中に存在していました。

そうした手しごとによって生み出された衣服からは、それらが作られた時代やその土地での人々の暮らし、作り手が込めた思いまで読みとることができます。

今回の展示では、名もない女性たちが、家の手しごとで生み出した日常の衣服、裁縫や手入れの道具を紹介するとともに、小山の「結城紬」や「間々田紐」に代表されるように、現在では工芸品として扱われるようになった各地に残る個性的な手しごとの数々も紹介します。



ジブ(日光市) 【上：後ろ一部 右：前】
湯西川水の郷蔵
*ジブはこの地域で布をいくつもつぎあわせた着物のこと。



ハカマ(日光市) 湯西川水の郷蔵



ノラギ(小山市) 当館蔵



裁縫箱(小山市) 当館蔵



針ぼうず(小山市) 当館蔵

【記念講演会】

「女の手しごと～布を成仏させるまで～」

講師 所沢市文化財保護委員 宮本 八恵子氏

11月17日(土)13時30分～ (要予約)

【関連講座】

*津軽こぎん刺し体験教室 / *間々田ひも組紐体験教室 /

*アイヌ刺繍体験教室を実施予定 ※詳細は小山市広報10月号に掲載

【開館時間】 9時～17時(入館は16時30分まで)

【入館料】 大人200円(100円)、大高生100円(50円)

中学生以下無料 ※()内は20名以上の団体料金

*平成30年度の車屋美術館の半券で、大人100円、高・大生50円に割引あり

【期間中休館日】 月曜日(祝日は除く)、祝日の翌日

【問い合わせ】 博物館 TEL 0285-45-5331

自然系収蔵資料展 「昆虫」

【開催期間】 平成30年7月21日(土)～9月2日(日)
 【開館時間】 午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
 【入館料】 無料
 【休館日】 7月 23日(月)、27日(金)、30日(月)
 8月 6日(月)、13日(月)、20日(月)、
 24日(金)、27日(月)



アブラゼミの羽化：撮影：舞坂 康一氏

昆虫は世界中の陸地および淡水に生息しています。また、ごく一部ですが海水中に生息するものもあります。熱帯の密林、温暖な森林や山野には多数の多様な昆虫が見られますが、荒野や高山、砂漠のような厳しい環境も昆虫の生活場所となっており、昆虫がそれぞれの環境に応じた適応を示していることがわかります。また、現在知られている昆虫の種数は100万種を超え、特に陸上では全生物のうち、昆虫が圧倒的多数を占めています。しかも、100万種というのはあくまで既知の種数で、未知のものを含めると全種数は300万種を超えともいわれています。しかし、このように多種多様に進化を遂げ、様々な環境でも生活してきた昆虫の中でも、現在絶滅の危機に瀕しているものが多くいることも事実です。

今回の展示では、このように、地球上のさまざまな環境に適応し、大繁栄を遂げ、多様性を極めた昆虫を「多様さ」「生き方の巧みさ」などの面から、あらためて観察します。

展示内容は、大きく3つになります。まずは、日本はもちろん世界中の国や地域に生息するさまざまな昆虫を展示し、昆虫の多様性について紹介します。次に、昆虫の持つ驚異の能力や不思議な特徴、生きるための工夫などを紹介し、昆虫の生き方の巧みさに迫ります。そして最後に、小山市が世界の誇る湿地である渡良瀬遊水地の昆虫と栃木県内の絶滅危惧種を紹介します。この展示が、さまざま昆虫にあらためて目を向けるとともにあらためて郷土を愛でるきっかけになればと考えています。

コラム 歴史雑話 「南北朝時代の小山氏」

学芸員 佐久間 弘行

14世紀の小山氏当主の没年を西暦で列記すると、貞朝1330年、秀朝1335年、朝氏(朝郷)1346年、氏政1355年、義政1382年です。時あたかも鎌倉幕府が滅亡し、南北朝の対立をめぐる大動乱の時代です。動乱が始まった矢先、家督継承間もない秀朝が戦死すると、その後わずか20年の間に、小山氏では3代にわたって幼少の当主が出現しました。このような危機的状況にあっても、小山氏が東国屈指の大名であり続けることができたのは、家臣団がよく若き当主を補佐したからでしょう。しかし新たな関東の統治者となった鎌倉公方や隣接する宇都宮氏の揺さぶりを受け、ついに義政が破局へと至ったのは周知の通りです。人の生き死には運とは言え、成人した嫡男への円滑な家督継承ができなかったことが、小山義政の乱の遠因となったと考えることができます。

中学生 職場体験

毎年、小山市内の中学校数校の2年生が、総合的な学習の中のキャリア教育の一環として、「職場体験」という学習で博物館に来館します。今年度の1学期には、4校の生徒が来館し、それぞれのプログラムに沿って博物館の職場・職業体験を行いました。

職場体験のプログラムは、民俗資料や考古資料の整理、昆虫標本や鳥獣剥製の樟腦替え、各講座の準備や体験、学校への出前授業に同行、資料の写真撮影等、その日の担当者や実施場所によって替わります。

始めは緊張で顔が強張っている生徒たちですが、途中から笑顔が見え、受け答えや行動が堂々としてきます。体験終了後には、「思った以上に大変な職業だと感じましたが、楽しく貴重な体験ができました。」「普段は見ることも知ることもしないことを体験でき、裏方の仕事の大切さを感じることができました。」というような感想や手紙をもらいます。

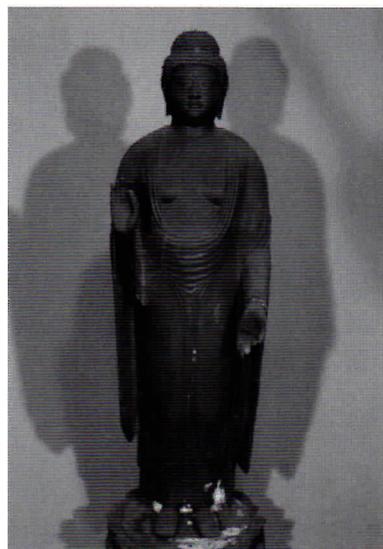
職場体験をきっかけに、生徒たちの職業観がより広がり、将来の進路を考える上での糧となるのではないのでしょうか。職員一同、今後も充実した職場体験の実施を目指し、小山市立博物館で職場体験した生徒たちが、近い将来だけでなく大人になったときに、博物館での体験を思い出し、また訪れてくることを願っています。



阿弥陀如来立像

本像は中島薬師堂・中島自治会の所蔵で、当館に寄託されているものです。檜の割矧造りで、像高は95.6cmです。様式から12世紀の後半、平安末期から鎌倉初期にかけての作と考えられ、市内に現存する仏像ではもっとも古い作例です。左手を垂下、右手を屈臂し、手のひらを前に向けて第1指と2指を捻る、来迎印を表しています。左手第3指を亡失する他に像の一部が欠失しており、また彩色や右手首先、台座などが後補であるものの、往時の姿をよくとどめており、小山市の文化財に指定されています。

本像が安置されていた中島薬師堂境内の寿亀庵は、常陸国飯沼弘経寺（茨城県常総市）の存把上人が、戦乱を逃れて小庵を結んだところと伝えられます。存把上人は後に結城秀康に招かれ、結城市内に寿亀山弘経寺を開きました。本像が存把上人と関係があるのかは不明です。鎌倉時代の小山氏一門では、下総国の下河辺氏の一族が親鸞上人に帰依したと伝えられるなど、阿弥陀信仰との関わりが深く、善光寺式の阿弥陀三尊も小山市内の数ヶ寺に伝来しています。

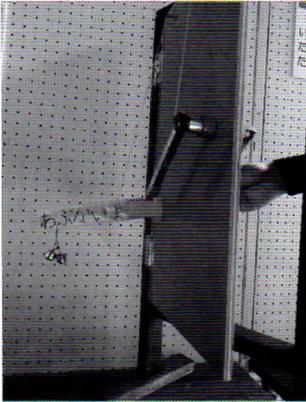


「必要は発明の母？」

古今東西、人類の夢を実現し、その発展にとってかけがえのない創造力の成果が発明です。

市立博物館では、「小山市青少年発明クラブ」の活動を30年以上にわたり行っています。

青少年に科学的な興味・関心を追求できる場を提供し、家庭や学校環境の制約を離れて、異年齢の集団の中で工作活動を通じて完成する喜びを味わわせ科学的発想に基づく生活態度を育成するとともに、創造性豊かな人間形成を図ることを目的として活動しています。現在、全国47都道府県に200ヶ所以上の青少年発明クラブがありますが、栃木県には、小山市青少年発明クラブだけしかありません。



安心安全予告ドア

毎年、栃木県児童生徒発明工夫展に参加し優秀な成績をあげています。昨年度は金賞3点、銀賞4点、銅賞3点に入賞し、科学技術館で行われた全国大会に金賞の2点が出品されました。さらには県の団体賞を毎年受賞しています。「必要は発明の母」といいますが、子どもたちにとっての発明工夫は、「思いやりの心」や「ものを大切に作る心」が大切であると考え、指導員の先生方と指導にあたっています。昨年度の全国大会出品作品を載せておきましたのでご覧ください。



どっちが大きい?

さて、発明にはそれにまつわる人々の出来事のような様々なエピソードがあります。努力、偶然、幸運、不運など、そこには人間のドラマがあります。

今回は、世界中で有名な発明王エジソンの話です。発明王トーマス・アルバ・エジソンが一番最初に取得した特許は「電気投票記録装置」でした。1868年のことです。これは投票にかかる時間を大幅に短縮できる画期的な発明でした。しかし議会の合理化に役立つはずのこの装置はまったく採用されませんでした。政治家が必ずしも効率を求めていなかったからです。

エジソンはこの経験から、いくら立派な発明でも人々が喜んでくれなければ何の意味もないと痛感し、必要とされない発明は一切しないと決意しました。その後は、周囲の人々の意見や要望をよく聞いてから発明に取り組みました。以後、エジソンは1931年に亡くなるまでの間に、1,093件の発明を行い、特許を取得しました。その発明の数々が人々にとって、いかに役立っているかはすでに皆さんがご存じの通りです。

博物館ボランティア・天文ボランティア募集中！ 詳しくは博物館まで！！

寄贈者芳名

次の方から貴重な資料をご寄贈いただきました。厚くお礼を申し上げます(敬称略)

- 酒入 陽子 (小山市) 書籍(『大日本史料』) 44冊
- 高木 博之 (小山市) 高木家文書 1式
- 碓井 清 (小山市) 書籍(『森羅萬象』) 1冊、碓井要作写真 1点
- 岡本 茂生 (小山市) 銭箱、雲龍水(手押しポンプ)、ショクダイ 各1点、カヨイドックリ 3点、測量道具 1式、電気盤 1式、国債類 1括

	発行年月日	平成30年8月15日
	発行	小山市立博物館 〒329-0214 栃木県小山市乙女1-31-7 (JR宇都宮線間々田駅西口下車徒歩10分)
	電話	(0285) 45-5331 FAX (0285) 45-5247
	H P	http://www.city.oyama.tochigi.jp/soshiki/59/
	印刷	株式会社ダイサン小山